

対談 ～ 能勢を語る ～



中 和博 能勢町長

原田：この写真は 地区だとか、ここはどこだろうか？という風に町内に住んでいる方にも興味をもってもらえたことが大きいと思います。コンセプトは若い女性に「能勢」に来てもらうことだったんですが、町内に住んでいる方が多く本を買っていただいている。能勢の人が能勢の知らないところを発見するために購入されているということが嬉しいですね。

町長：町内にお住まいで「てっぺん」を購入された人の中には、自分の住んでいる町を知り合いに伝える手段として購入された方もいらっしゃると思いますね。そういう意味では、町民の方にも喜んでいただけたのではないのでしょうか。

町外の方が「てっぺん」を購入された理由は何だとお考えですか

町長：癒しを求めておられるんだと思います。「てっぺん」の中には、「そのままの能勢」つまり田舎らしさが詰まっている。まさに、都会のオアシスですよ。大都市大阪の中にあつて独自色が評価されたんだと思います。

福畑：いま、町長がおっしゃった通りだと思えます。うちの店には、大切な方と2人とか家族連れなど比較的少人数でお越しいただくことが多いんです。中には1人でいらっしゃる方もありますよ。

みなさんに共通しているのは、日常の生活で疲れた自分をリセットするために来られるということ。忙しい日々の中でリフレッシュできる場所「能勢」それが「てっぺん」を通して認識されたんだと思います。

町長：そしてもうひとつ、「てっぺん」が評価されたのは、編集に携わってくれた人たちの「想い」が一つになった結果だと思うんです。



福畑：そうですね。懸命に創った想いが「てっぺん」には溢れ出ていて、読む人の心に注がれているんだと思います。

「てっぺん」を通じて、これから能勢に求められることは何でしょうか

福畑：能勢の良さをもっと積極的に発信することだと思います。能勢には里山など人と自然が共存できる空間が多くあります。そして「食」を学ぶための素材にも恵まれていて、非常に自然と人がバランス良く共存できていると思うんです。これは理想的なライフスタイルとして提案ができる大きな要素ではないでしょうか。「便利」「豊かさ」「幸せ」という考え方も昨今では、変化しつつあり

ますからね。ひと時の幸せを感じてもらって素材がたくさんあることは、自分たちも気づいていない、大きな可能性を秘めていると思います。



町長：能勢が持つ自然環境や浄瑠璃などの文化、新鮮で安全安心な食を通して、春夏秋冬を感じることで癒しの空間を提供することが能勢の果たす役割だと思います。

原田：能勢の中には、まだまだ多くの資源があると思うんです。そういうものを探していきたいですね。それと地元の人とお客さんが、たわいもない会話を自然にできる雰囲気